

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所 青い鳥		
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14枚
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5枚
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまが安心して過ごせる環境づくりを何よりも大切にしており、落ち着いた雰囲気の中でそれぞれのペースを尊重した支援を行っています。初めての場面や新しい活動に対して不安を感じやすいお子さまにも配慮し、無理なく馴染んでいけるよう関わりを工夫しています。日々の関わりを通して、「ここなら安心して過ごせる」と感じていただけるような居場所づくりを心がけています。	活動の流れが分かりやすくなるように工夫し、お子さまが見通しを持って過ごせるよう心がけています。次に何をやるのか分かることで、不安の軽減や落ち着いた行動につながるよう支援しています。また、安心して次の行動に移れるよう、声かけのタイミングや環境面でのサポートにも配慮し、一人ひとりに合った関わりを大切にしています。	今後も、より安心して過ごせる環境づくりを継続していくとともに、お子さま一人ひとりが落ち着いて自分の力を発揮できるような空間づくりをさらに工夫してまいります。小さな変化にも気づきながら、その子にとって過ごしやすい環境を整えられるよう努めていきます。
2	お子さまの「できた」という気持ちを大切に、小さな成功体験を積み重ねられるような関わりを日々意識しています。その一つひとつの経験が自信につながり、「やってみよう」という前向きな気持ちを育てることにつながっています。無理なく取り組める関わりの中で、お子さまの意欲が自然と引き出されている点が当事業所の強みです。	活動の中で達成しやすい目標を設定し、お子さまが無理なく取り組めるよう工夫しています。少しの頑張りや変化にも目を向け、「できたこと」をしっかりと認めることで、安心感や満足感につながるよう関わっています。また、成功体験が積み重なることで、次の活動にも前向きに取り組めるよう支援しています。	今後は、お子さま自身が「できた」と実感できる場面にさらに増やしていくことで、自信を持って次の活動へとつなげられるような支援を充実させていきたいと考えています。一人ひとりの成長のペースに合わせてながら、達成感を感じられる機会を大切にしていきます。
3	お子さま同士の関わりを大切にしながら、自然な形でコミュニケーションや社会性が育まれるよう支援しています。無理に関わりを促すのではなく、安心できる環境の中で少しずつやりとりを経験できるようにしており、その中で関わる楽しさを感じられるような場面が増えています。日常の中での関係づくりを大切にしている点が特徴です。	遊びや活動を通して、無理のない形で他のお子さまと関わる機会を取り入れています。お子さまの気持ちに寄り添いながら、安心してやりとりができるよう関わり方をさりげなくサポートしています。また、やりとりの中での楽しい経験が積み重なることで、人との関わりに前向きな気持ちが持てるよう配慮しています。	今後は、さまざまな場面での関わりを経験をさらに広げていくことで、お子さま同士のつながりがより深まるような支援を目指していきます。一人ひとりのペースを大切にしながら、安心して関わりを広げていけるような活動内容の充実を努めてまいります。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容が一定の傾向に偏りやすく、お子さま一人ひとりの興味関心の広がりにつながる経験の機会が十分とは言えない面があると感じています。日々の活動は安定して提供できている一方で、新しい刺激や発見につながる機会がやや少なくなっている点が課題として挙げられます。	安全面や日々の過ごしやすさを重視する中で、慣れた活動が中心となりやすく、新しい取り組みや多様な体験の機会がやや限られていることが要因の一つと考えられます。また、お子さまが安心して取り組める環境を優先するあまり、活動内容の幅を広げる工夫が十分に行き届いていない側面もあると感じています。	今後は、お子さまの興味や関心に合わせた活動のバリエーションをさらに増やし、新しい体験にも無理なく触れられる機会を大切にしていきます。これまでの安心できる環境は維持しつつ、少しずつ新しい経験を取り入れることで、楽しみながら世界が広がっていくような活動内容の充実を努めてまいります。
2	お子さま一人ひとりに合わせた関わりを大切にしている一方で、その日の体調や気持ちの変化に対して、より細やかに対応できる余地があると感じています。日によって異なる様子に対し、もう一步踏み込んだ配慮が必要な場面も見受けられます。	日々の活動の中で全体の流れを優先する場面もあり、個々の小さな変化に対する気づきや対応が十分に行き届かないことがある点が要因と考えられます。また、限られた時間の中で複数のお子さまを見守る中で、一人ひとりへの関わり方の深さに差が出てしまうことも一因と感じています。	今後は、お子さまのその時々様子により丁寧に目を向けながら、状況に応じて柔軟に関わり方を調整できるよう意識していきます。一人ひとりが無理なく安心して過ごせるよう、日々の小さな変化を見逃さず、きめ細やかな支援の充実を図ってまいります。
3	お子さま同士の関わりは見られるものの、関係性が深まるまでには時間がかかることがあり、継続的なやりとりにつながりにくい場面があると感じています。関わりへのきっかけはあるものの、それが継続した関係へと発展しにくい点が課題の一つです。	それぞれのペースや気持ちを大切にする中で、関わりを急がない支援を行っているため、結果として関係づくりの機会がやや限定的になることがある点が要因と考えられます。また、お子さま自身の安心感を優先することで、関わりを広げる機会の設定が控えめになっている側面もあります。	今後は、お子さま同士が自然に関わりを深めていけるような活動や場면을意識的に増やしていきます。安心できる環境を大切にしながら、少しずつ関係性が広がっていくような関わり方や活動内容を工夫し、お子さま同士のつながりが無理なく育まれるよう支援してまいります。